

|              |       |       |              |     |      |
|--------------|-------|-------|--------------|-----|------|
| キリスト教〈キリスト教〉 | クラス   | 科目コード | 配当年次         | 期 間 | 人数制限 |
| キリスト教入門      | ET/PC | 11101 | I            | 春   |      |
| 担当者名         | 区分    | 単位    | 科目と関係のある実務経験 |     |      |
| 尾崎 秀夫        | 必修    | 2     |              |     |      |

### 授業の到達目標

現代の文化に大きな影響を与えているキリスト教についての理解を深める。また世界で多くの信徒がいるイスラム教や仏教についても基礎知識を身につける。信教の自由は、自分が選んだ宗教を信仰できるという権利であるとともに、他人の信仰を尊重するという義務でもある。従って、どの宗教を選ぶにしろ、いかなる宗教も信じないにしろ、さまざまな宗教について知っておくことは必要である。この授業を通して、K A I S E I パーソナリティの異文化理解のIn(国際性)とキリスト教が説く他者に対する隣人愛、K(思いやり)の心を養う。

### 授業の概要

キリスト教は西暦1世紀に現在のパレスティナに成立し、現在では世界の3大宗教のひとつとされ、現代の文明に計り知れない影響を与えていることは周知の事実である。では、キリスト教とは何か。本講義では、世界の主要な宗教を概観してキリスト教の位置を確認するとともに、ユダヤ人の歴史などキリスト教の成立の背景を考察し、キリスト教の基本的な教えと、その後の発展を検討する。

### 授業計画

1. はじめに 宗教とは
2. 世界の三大宗教(仏教)
3. 世界の三大宗教(イスラム教)
4. 創造神話
5. アブラハム
6. 出エジプト
7. カナンへの帰還
8. 王国の成立と発展
9. 王国の分裂
10. バビロン捕囚
11. ユダヤ教の成立とメシア待望
12. ナザレのイエス その生涯
13. イエスの宣教
14. イエスの裁判、十字架上の死と復活
15. キリスト教の成立と発展

### 授業の方法

講義、発問、討議

### 準備学修

信仰に関係なく聖書は人類の重要な遺産であり、現代人にとっても学ぶところが大きい。関心のある部分を読んで授業にのぞんでもらいたい。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

最低でも3分の2以上の出席が必要である。

### テキスト

『聖書』(新共同訳(旧約統編つき)) 日本聖書協会(新共同訳であればどの版でも構わない。)

### 参考図書

井瀬文児『キリスト教の輪郭』(女子パウロ会)  
井上洋二『キリスト教がよくわかる本』(PHP研究所)

### 留意事項

この講座は、決して受講生をキリスト教徒にすることを目的としたものではないが、ホスピタリティには相手を受け入れることが不可欠であり、宗教の理解が必要である。その意味でもしっかり学んで欲しい。

### 教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

|              |       |       |              |     |      |
|--------------|-------|-------|--------------|-----|------|
| キリスト教〈キリスト教〉 | クラス   | 科目コード | 配当年次         | 期 間 | 人数制限 |
| 聖書概論         | ET/PC | 11105 | I            | 秋   |      |
| 担当者名         | 区分    | 単位    | 科目と関係のある実務経験 |     |      |
|              | 必修    | 2     |              |     |      |

### 授業の到達目標

聖書の基本的な思想、本格的な内容を形作っている要素を探求し、その思想や概念が人類の歴史・文化の中にどのように現れているかを参照し、知的満足のためではなく、心を開き、人間として真実に生きるための光とする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのK(思いやり)、I(知性)とE(倫理)を目指す。

### 授業の概要

神と人間の歴史における出会いの物語である旧約聖書・新約聖書全般についての基礎知識を得て、具体的に聖書の箇所を読み、質問、分かち合いを含めながら聖書に親しむ。聖書記者が当時の世界像から取った題材としてこれを用い、彼らが言おうとしていること、その教えの内容を受け止められるようにする。それが単なる知識にとどまらず、人間とは何か、神とは何か、そして人間と神との関係は何かを一人一人の人生の中で味わう。

### 授業計画

1. 聖書を読むということー聖書について
2. イエスの告げた福音
3. イエスのもたらした解放ー新たな出発
4. イエスの人との接し方ー人を立ち上がらせる
5. リフレクション
6. ゆるしと愛ー神の心
7. 神の国(天の国)ー山上の説教
8. 祈りー「主の祈り」
9. イエスの力ある業ー悪の克服
10. リフレクション
11. 最後の晩餐ー永遠のいのちーいのちの糧
12. イエスの誕生ークリスマス(降誕祭)
13. イエスの苦しみと死ー受難と十字架の死
14. エマオの弟子たちー復活ー希望の保証
15. リフレクションー全体のまとめ

### 授業の方法

講義形式と小グループで話し合う。リアクション・ペーパーを提出する。

### 準備学修

『聖書』(新共同訳)の最初、創世記1章～11章まで、およびテキスト「根本問題をつかめ!」を読んでおくこと。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

1回の欠席につき5点減点とする。

### テキスト

『聖書』旧約聖書統編つき 新共同訳 日本聖書協会 発行  
「イエス登場!」(気合の入ったキリスト教入門) 来住英俊著 ドン・ボスコ新書  
「根本問題をつかめ!」(気合の入ったキリスト教入門) 来住英俊著 ドン・ボスコ新書

### 参考図書

『旧約聖書』図解雑学 雨宮慧著 ナツメ社  
『聖書 Q & A』和田幹男監著 女子パウロ会  
『聖書読解へのアクセス 50のポイント』湯浅俊治著 教友社

### 留意事項

聖書とルーズリーフ形式のノート(大きさは自由)を毎時間持参すること。

|              |     |    |              |      |     |      |
|--------------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| キリスト教〈キリスト教〉 | クラス |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| キリスト教海外研修    |     |    | 11109        | I    | 秋   |      |
| 担当者名         | 区分  | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 尾崎 秀夫        | 選択  | 2  |              |      |     |      |

### 授業の到達目標

本学と深い関係のある7ジアの聖フランシスコの足跡を辿ることによって大学の建学の精神を具体的に理解することを目的としている。キリスト教の土台にある愛と他者に仕える姿勢を生きたフランシスコの町、アジアを訪れる人の心に深い感銘を与え、人生への生き方に大きな影響力を持つ。この授業ではIn（国際性）に重点を置く。

### 授業の概要

中世、教会の権力が政治の世界でも強大な力を持ち、キリスト教の本質が危うくなった12世紀後半に現れたフランシスコは聖書に従った生き方を選び、その生き方によって現代に至るまで人々に大きな影響を与えている。ローマとアジアを中心に8泊9日の研修の旅を実施し、フランシスコゆかりの土地や自然、聖堂や絵画を訪ね、鑑賞することでキリスト教の世界の豊かさに触れていく。

### 授業計画

1. 研修に出る前の準備のクラス 第1回—イエスの生涯を中心に—
2. 研修に出る前の準備のクラス 第2回—フランシスコの生涯と思想—
3. 研修に関する具体的な準備の集まり
4. 研修の日程1日目:関西空港から出発ミラノ着
5. 研修の日程2日目:ミラノにて大聖堂、聖アンブロジーオ教会等を訪問
6. 研修の日程3日目:フィレンツェにて聖マルコ修道院、大聖堂を訪問
7. 研修の日程4日目:アシジの聖フランシスコ大聖堂、クララ教会等を訪問
8. 研修の日程4日目:サンタ・マリア・デリ・アンジェリ教会へ
9. 研修の日程5日目:アシジにてカルチェリの隠遁所を訪ねる
10. 研修の日程5日目:サンダミアーノ修道院へ
11. 研修の日程6日目:ローマのフォロロマーノ、ラテラノ教会等を訪ねる
12. 研修の日程7日目:パチカン美術館、特にシステリーナ礼拝堂を訪ねる
13. 研修の日程7日目:サンピエトロ大聖堂

14. 研修の日程8日目:日本に向けて出発
15. 研修の日程9日目:関西空港着

### 授業の方法

事前の講義と研修旅行。

### 準備学修

イエスやアッシジの聖フランシスコやイタリアについて書物や映像資料などで調べ、基礎知識を身につけておくこと。

### 課題・評価方法

その他

### テキスト

川下勝「アッシジのフランシスコ」清水書院、2004

### 参考図書

j.ヨルゲンセン著、佐藤要一訳「アシジの聖フランシスコ」ドン・ボスコ社、1988  
 チェラノのトマス著、石井健吾訳「聖フランシスコ第一伝記」あかし書房、1989

### 留意事項

研修はフランシスコをよりよく理解するためなので、他者と協力し、助け合う精神をもつこと。また、歩いていく所が多いので体力を鍛えておくこと。人間性の豊かさや広さ、深さや多様性に関心をもちて望んでほしい。また視野を広げるために、クラスで言及する作品を自主的に読んだり、観賞したりする努力をしてほしい。

### 教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

|              |       |    |              |      |     |      |
|--------------|-------|----|--------------|------|-----|------|
| キリスト教〈キリスト教〉 | クラス   |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 聖書と現代        | ET/PC |    | 11113        | II   | 春   |      |
| 担当者名         | 区分    | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
|              | 必修    | 2  |              |      |     |      |

### 授業の到達目標

現代社会が抱えている様々な問題を取り上げ、それらに対する聖書の教え、キリスト教の説教、歴史的取り組みなどを紹介しながら、受講生一人一人が、主体的に考え、行動できる力を養うことを目標としている。この授業はKAISEIパーソナリティのI（知性）とS（奉仕）を学ぶクラスである。

### 授業の概要

現代は、科学技術が急速な進歩を遂げる一方で、様々な既成の価値が崩壊し、ますます多様化、多元化する社会の中で人々が自分にとって最も大切なものは何か、また、自分はどうのように生きてらよいかを見つけるのが、大変困難な時代となっている。一般にポスト・モダンと呼ばれるこのような社会状況の中で長い歴史をもつ伝統宗教としてのキリスト教もその対応と存在意義が改めて問われている。キリスト教は現代社会が直面する様々な問題にどのように取り組み、答えようとしているのか。本講座では、現代社会との関わりにおいて21世紀におけるキリスト教のメッセージを読み解こうとする試みである。

### 授業計画

1. 序—現代を生きるキリスト教
2. I. 人間—真に人間らしく ①「男と女」—新しい関係を求めて
3. ②「家庭」—危機と再生
4. ③「生と死」—生命倫理をめぐる
5. リフレクション①
6. II. 社会—価値多様化と多文化共生を目指して ④「戦争と平和」—平和の作り方
7. ⑤「民族主義と差別」
8. ⑥「宗教多元主義の問題」
9. リフレクション②
10. III. 世界—グローバル化の進退の中で ⑦「富・貧・欲望」
11. ⑧「環境破壊とエコロジー」
12. リフレクション③
13. IV. 将来への展望—希望を抱いて ⑨「不幸・不公平」—人間の苦しみと神の義の問題
14. ⑩「世の終わりと希望」
15. リフレクション④

### 授業の方法

講義と受講生によるディスカッションを組み合わせて行う。

### 準備学修

現代社会が抱えている様々な問題を取り上げるので、日頃から問題意識をもって、自ら考える習慣を身につけて欲しい。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

授業の中でリアクション・ペーパーを書いてもらったり、ディスカッションを行う。それらへの積極的参加も平常点の一部として扱うので最低でも3分の2以上の出席がなければ学期末レポートを提出する資格を失う。

### テキスト

【聖書】（新共同訳（旧約統編つき））日本聖書教会（新規に購入するならN143DCH-APを勧めるが、新共同訳であればどの版でも構わない。）

### 参考図書

芦名定道、土井健司、辻学【現代を生きるキリスト教—もう一つの道から】 教文館。  
 教皇庁正義と平和協議会【教会の社会教説綱要】 カトリック中央協議会。

### 留意事項

テキストの【聖書】を教室に持参すること。遅刻や早退は、明確な理由のない限り、欠席と見なす。

|              |     |       |              |     |      |
|--------------|-----|-------|--------------|-----|------|
| キリスト教〈キリスト教〉 | クラス | 科目コード | 配当年次         | 期 間 | 人数制限 |
| キリスト教と文化     | ①/② | 11117 | Ⅲ            | 春／秋 |      |
| 担当者名         | 区分  | 単位    | 科目と関係のある実務経験 |     |      |
| 尾崎 秀夫        | 選択  | 2     |              |     |      |

### 授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教に关しても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

### 授業の概要

まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。一般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

### 授業計画

1. 導入
2. 聖書と歴史
3. 出エジプトと歴史研究(1)
4. 出エジプトと歴史研究(1)
5. 古代における宇宙観
6. 古代における天動説と地動説
7. 中世における天動説
8. コペルニクス(1)
9. コペルニクス(2)
10. ジョルダノ・ブルーノの地動説
11. ガリレオ・ガリレイ(1)
12. ガリレオガリレイ(2)
13. 科学の発達とキリスト教
14. 聖骸布
15. まとめ

### 授業の方法

講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

### 準備学修

地動説について復習しておくこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

### テキスト

とくに定めない。

### 留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

|                           |                 |       |              |     |      |
|---------------------------|-----------------|-------|--------------|-----|------|
| 基礎〈基礎〉                    | クラス             | 科目コード | 配当年次         | 期 間 | 人数制限 |
| 基礎演習Ⅰ                     | ET①/ET②/ET③/ET④ | 11201 | I            | 春   |      |
| 担当者名                      | 区分              | 単位    | 科目と関係のある実務経験 |     |      |
| 石原 敬子／宮副 紀子／佐伯 瑠璃子／吉野 美智子 | 必修              | 1     |              |     |      |

### 授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

### 授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

### 授業計画

1. (1)オリエンテーション
- (2)言語1
2. (1)言語2
- (2)オリエンテーション(図書館)
3. 春学期での目標設定。
4. (1)言語3
- (2)留学発表
5. (1)言語4
- (2)レポート作成:レポート、段落について。
6. (1)社会1
- (2)レポート作成:段落とは。
7. (1)社会2
- (2)レポート作成:直接引用のやり方。
8. (1)社会3
- (2)レポート作成:直接引用のやり方。参考文献の様式。
9. (1)社会4
- (2)レポート作成:参考文献の様式。表紙の様式。
10. (1)数学1
- (2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
11. (1)数学2
- (2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
12. (1)数学3

(2)啓発活動

13. (1)数学4
- (2)「ホスピタリティ研修」の事前指導
14. (1)確認試験1
- (2)レポート作成:教員からの添削をもとにレポートを完成する。
15. (1)確認試験2
- (2)教員からの添削をもとにレポートを完成し、提出する。

### 授業の方法

演習形式  
後半は言語活動、クラス討議や研修を行う

### 準備学修

テキストでしっかり予習・復習すること。eラーニングで学ぶこと。準備学修には60時間以上かけること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

### テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育伸社）

### 留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

### 教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

|                         |                 |       |              |     |      |
|-------------------------|-----------------|-------|--------------|-----|------|
| 基礎〈基礎〉                  | クラス             | 科目コード | 配当年次         | 期 間 | 人数制限 |
| 海星学Ⅱ                    | PC①/PC②/PC③/PC④ | 11207 | Ⅱ            | 秋   |      |
| 担当者名                    | 区分              | 単位    | 科目と関係のある実務経験 |     |      |
| 渋谷 美智／石畠 多恵／南 夏世／中園 佐恵子 | 必修              | 1     |              |     |      |

### 授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史について理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目についての学び、並行して行われるキャリアプログラムと合わせ、各自の考えを確立し、内面的に自らを磨き、自身のキャリアデザインを描く。

### 授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉をグループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、発信する力をつけ、最終的にチームでプレゼンテーションを作り上げ発表する。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムを通し、自身の将来に対する意識を確立させていく。

授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

### 授業計画

- 1.ポートフォリオ(学生カルテ)
- 2.KAISEIパーソナリティの研究項目の選択とチーム確認
- 3.大学祭についてのディスカッション①
- 4.大学祭についてのディスカッション②
- 5.大学祭についてのディスカッション③  
職業研究
- 6.卒業生によるピアサポート①
- 7.卒業生によるピアサポート②
- 8.社会で働く①(キャリアセンター)
- 9.社会で働く②(学科教員)
- 10.テーマについてのグループディスカッションと研究と報告①
- 11.テーマについてのグループディスカッションと研究と報告②
- 12.グループのプレゼンテーションの準備作業
- 13.グループのプレゼンテーションの発表準備
- 14.全学科の学生の前でのプレゼンテーションと意見交換
- 15.ポートフォリオ(学生カルテ)

### 授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレ

ゼンテーションなど授業によってさまざまな形で行う。

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法

- ①各教員から課題が与えられる。フィードバックの方法は教員によって異なる。
- ②平常点40%、定期試験30% eラーニング30%

### 欠席について

出席を重視する。欠席が5回を超えると単位は修得できない。

### テキスト

プリント使用

### 留意事項

eラーニングを課題とし、実力テスト診断テストを10クリアさせること。教学カルテを入力しておくこと。

### 教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

|        |       |       |              |     |      |
|--------|-------|-------|--------------|-----|------|
| 基礎〈基礎〉 | クラス   | 科目コード | 配当年次         | 期 間 | 人数制限 |
| 人間学Ⅰ   | ET/PC | 11209 | Ⅰ            | 秋   |      |
| 担当者名   | 区分    | 単位    | 科目と関係のある実務経験 |     |      |
| 尾崎 秀夫  | 必修    | 2     |              |     |      |

### 授業の到達目標

本学では、キリスト教的人間観に基づく人間教育を基本理念の一つとしている。本講義は、学生が1人の人間として社会に対する責任を果たすことができるよう、現代社会の様々な動きや問題点について考えていく。この授業では、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

現代は急速な変化の時代である。私たちはその中で一人ひとりが責任を持って生きていかねばならない。そのためには現代の動きや様々な問題などについて知り、考えることが不可欠である。本講義では、新聞などを利用して、この1、2年に起こった様々な問題について解説し、皆で考えていきたい。

### 授業計画

1. 昨年の時事問題(1)
2. 昨年の時事問題(2)
3. 1月頃の時事問題
4. 2月頃の時事問題
5. 3月頃の時事問題
6. 4月頃の時事問題
7. 5月頃の時事問題
8. 6月頃の時事問題
9. 7月頃の時事問題
10. 8月頃の時事問題
11. 9月頃の時事問題
12. 10月頃の時事問題
13. 11月頃の時事問題
14. 12月頃の時事問題
15. この1年の時事問題

### 授業の方法

講義、演習、発表形式。

### 準備学修

日々新聞やテレビ、インターネットで時事問題に関心を持ち、興味

を持った事柄については自分で調べてこと。家族や友人ともそのような話題を取り上げて、いろいろな意見を聞くこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

### テキスト

特に定めなし

### 留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

### 教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

|        |     |    |              |      |     |      |
|--------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 総合<総合> | クラス |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 社会科学概論 |     |    | 11377        | Ⅱ    | 秋   |      |
| 担当者名   | 区分  | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 尾崎 秀夫  | 選択  | 2  |              |      |     |      |

### 授業の到達目標

本授業では、歴史学のあり方について学ぶ。歴史は小学校から高校まで必ず学ぶ科目であるが、暗記科目と見られることが多い。歴史学者が史料に基づいて如何に過去を明らかにしていくかを体験させる。この授業では、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

歴史は決して暗記科目ではなく、史料に基づいて過去を再構成していく営みである。先行研究の成果である通説と対峙しつつ、修正・変更を加えて新しい通説を構築していくのが歴史学の進歩である。本授業ではローマ皇帝の対キリスト教政策をテーマとして、そのような歴史学の営みを受講生に体験してもらいたい。

### 授業計画

1. はじめに、歴史学とは何か
2. 古代ローマ史(1)
3. 古代ローマ史(2)
4. 古代ユダヤ史
5. ネロの迫害(1)
6. ネロの迫害(2)
7. ドミティアヌスの迫害
8. トラヤヌスの勅令
9. 1, 2世紀の迫害の実態
10. アントニヌス勅令
11. デキウス、ヴァレリアヌスの迫害、カリエヌスの平和令
12. ディオクレティアヌスの迫害
13. ミラノ勅令
14. キリスト教国教化
15. まとめと試験

### 授業の方法

講義、討論、演習形式。

### 準備学修

授業内容の背景を知るため、古代ローマ史やキリスト教史に関する

書物を読んでおくこと。（60時間）

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

通常欠席が5回を超える場合は受験資格を認めない。

### テキスト

テキストは特に定めなし。随時、史料のプリントを配布。

### 参考図書

とくに指定しない。

### 留意事項

私語は慎み、求められたときは積極的に発言すること。

### 教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

|        |     |    |              |      |     |      |
|--------|-----|----|--------------|------|-----|------|
| 総合<総合> | クラス |    | 科目コード        | 配当年次 | 期 間 | 人数制限 |
| 家政学概論  |     |    | 11381        | Ⅱ    | 秋   |      |
| 担当者名   | 区分  | 単位 | 科目と関係のある実務経験 |      |     |      |
| 浅井 由美  | 選択  | 2  |              |      |     |      |

### 授業の到達目標

学問としての家政学を理解する。家政学の各分野を学ぶことを通じて、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

「家政学はどのような学問か」については、諸説が林立している。経済・社会の変化にともなう、家族や生活のあり方が変化し、家政学自体も改革を続けている。この講義では、家政学についての様々な主張を解説し検討することを通して、家政学とは何かにアプローチしたい。さらに、家庭経営、家庭経済、消費者問題、家族関係、食生活、衣生活、住生活、生活情報、生活環境などの各論・各分野についても学ぶこととする。家政学、生活科学、生活環境学などを網羅し概観することで、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身に付け、実践的能力を養う。

### 授業計画

1. 様々な家政学
2. 家政学の定義・目的・対象・方法
3. 家政学の発展過程と改革
4. 家庭生活と生活経営
5. 家庭経済・消費者問題
6. 家族関係
7. 食生活 1
8. 食生活 2
9. 衣生活 1
10. 衣生活 2
11. 住生活 1
12. 住生活 2
13. 生活情報
14. 生活環境
15. まとめ

### 授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションをとり入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

欠席1回につき3点減点する。

### テキスト

実教出版編集部『生活学Navi』実教出版

### 参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。